

(美術) 授 業 シ ラ バ ス

教科	科目	単位数	学科・学年・学級
美術	鑑賞研究	2単位	芸術科 第2学年6組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品や文化財などについて理解を深める。</li> <li>・知識や経験を活かし鑑賞を深化させ、創作活動にもつながる思考力、判断力、表現力等を育成する。</li> </ul>		
教科書・副教材等	高校生の美術1、巨匠に教わる絵画の見方	授業形態	一斉授業・個人演習

2 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点	考査
1 学期	4	美術作品を鑑賞するとは(概論)	芸術作品を鑑賞する発動と心情に着眼し「鑑賞」を通して人々が得ようとするものは何かを考える。	表現者(作者)の心情や意図、工夫等について考えるなど、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組めたか。	レポート
	5 6	鑑賞①平面作品を通して作品を鑑賞する視点を考える 演習①鑑賞①より関心を持った作家の作品模倣制作	洋画、日本画、古典美術や現代アートを通し作者や作品に対する理解を深める。 鑑賞者として興味関心を持った作家の作品を、身近な画材と画風を模倣することにより作者の意図に触れる。	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現や意図について考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組めたか。 作画の工夫を自分なりに解釈し制作に落とし込めたか。作画を通して分かったこと、気づきを言語化で表現できたか。	制作・鑑賞レポート
	6 7	鑑賞②立体作品を鑑賞する視点を考える 演習②素材研究 紙材による立体構成	写實的または抽象的彫刻、古典作品や現代アートを通し作者や作品に対する理解を深める。 幾何立体の展開図を考え美しく制作する。テーマに則り自分なりの課題に対する意図を、立体に表すことができる。	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現や意図について考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組めたか。 幾何立体の展開図をきちんと描くことができたか。紙折の技術や接着剤塗布の美的処理など、面接合の基本技法を習得し美しく制作できたか。	制作・鑑賞レポート
2 学期	9 10	演習③量的素材による表現 油土による塑像	量的素材を構成材として用い全方位視点からの美的空間形成に対応する構成力を身につける。	量的素材の形状を認識し複数立体の組み合わせによる量感対比を把握、空間美を表出した立体構成ができたか。	制作・鑑賞レポート
	11 12	演習④複合素材による表現の可能性「フィギュア製作」	新素材(発泡ウレタンや樹脂系)の扱いと表現の可能性を探り、造形表現の幅を広げる。立体表現における誇張と簡素化のバランス感覚等を身につける。	フィギュアの展開図を完成形を具体的にイメージして描くことができたか。発砲素材、樹脂粘土などの適切な扱い、細工技術や接着剤塗布の美的処理など、面接合の基本技法を習得し美しく制作できたか。	制作・鑑賞レポート
3 学期	1 2 3	演習⑤立体構成の模試体験	大学進学時に求められる立体構成課題の過去問題を体験、解釈と時間配当のイメージを固める。	大学進学時に求められる立体構成課題の内容、素材、配当時間と完成度、解釈などについて理解を深めることができたか。	鑑賞レポート
		鑑賞③推しアーティスト紹介新聞制作	尊敬や憧れを抱く作家を取り上げ、その表現の魅力について簡潔にまとめる活動を通し、鑑賞の視点を確認する。	限られた文字数と画像等のレイアウトを通して他者に対し魅力的に「推しアーティスト」を伝えることができたか。他者の発表に対し、新たな気づきをつかむことができたか。	
年間の評価	作品の提出状況、観点別評価(主体的に取り組む態度、思考力・判断力・表現力、知識・技能)などを総合的に判断し評価する。				

3 その他